



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2023年7月30日 No. 111

仰せのとおり
わたしの足どりを確かなものにしてください。

詩編 119編 133節・新共同訳



宣教40年の旅-100%感謝して-

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

テサロニケの信徒への手紙一 5章 16-18節 a

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



「畑に隠された宝」のたとえについて、思いめぐらせている時、私はルターの「隠された神」という理解を思い起こしました。このルターの理解の根拠となるのは、イザヤ書 45 章の次の言葉になります。「まことにあなたはご自分を隠される神」。

この隠された神についてルターは、次のように書いています。「我々の希望に反対なことを生ぜしめる神である。」つまり、神は私たち人間が望むことと反対にみえることを行われると言うのです。さらにルターは、「否定の下に、否定の上に、深い隠された肯定がある」と言っています。すなわち、私たちには否定的に見える事柄の中に、神の隠された肯定があると言っているのです。「隠された神」、これは神の御心というものは、人間の理性では到底受け止められないことであり、それは説明できることでも、説得することでもなく、ただ信仰によってしか、受け入れることができないということなのです。

それはイザヤ書 55 章で主なる神が、次のように告げられている通りです。「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／わたしの道はあなたたちの道と異なると／主は言われる。天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを高く超えている。」

困難の中にあるとき、人はその理性のゆえに、神を見失うことがあるでしょう。しかし、ルターの言う「隠された神」の理解は、その困難にあって、自らがみる大いなる否定の中に、いいえより正確に言うなら、困難にみる、私たち人間には大いなる否定と見える

その中に置かれている時にこそ、深く隠された神の肯定があるということです。そこに神はおられないと、私たちの目に映る現実の中に、それでも神は確かにおられるということなのです。

「隠された神」とは、神がおられないということではなく、確かにおられるのであるが、ただ私たちの目に隠されているということです。それは私たちが神について、あくまでも人の常識、知識で捉えようとしてしまうからではないでしょうか。私たちは目に映る現実を受け入れ、知っていることを確認することは出来るのですが、目に見えないものを理解することは難しいのです。しかもそれが私たちの思いを高く超えているのですから、納得できないのです。ですから神の御心に対して、私たちに残されているのは信じるということだけなのです。

コリントの信徒への手紙に次のようにあります。「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」

私たちが人間的知識や常識にとらわれる限り、それらを高く超えた神の御心は隠されて見出せないことでしょう。しかし私たちの思いを高く超えた御心、否定の中にある絶対的肯定を信頼するとき、私たちはすべてにまさる宝を見出して、人生を喜びのうちに歩み始めることができるのです。これが神の支配のうちに、神の愛による支配の中に安心して、生き始めるということだからです。

(聖霊降臨後第 9 主日)

宣教 40 年の旅の始まり

○瀬啓○

・本年度の教会の主題は「宣教 40 年の旅—100%感謝して」ですから、この 40 年の「旅の始まり」を、思い出すままに、ここに綴らせていただきます。

・まずはその出発点ですが、「城南神奈川地区にも教会がほしい」「藤が丘の高台が最適」という信徒の声が高まり、祈りに熱がこもりました。北米のルーテル教会からの資金援助も受けられる見通しが立ちました。こうして祈りが聞かれ、先ずはこの高台にプレハブの集会場が建てられて、「福音」—喜ばしい知らせ—が伝えられることになったのです。まことに「有り難い」ことでした。

・それから数年後には、このプレハブの集会場が、現在の小ざっぱりとした教会堂に様変わりして、歴代の牧師（江口、重富、小副川、そして現在の佐藤牧師）により、教会の 40 年の歴史が積み上げられていきました。

・思い起こせば、この間には、女性信徒による家庭集会が教会形成の上で、重要な役割を果たしています。初代の教会のオルガニストであった○原○貴子さんは、ご自宅を家庭集

会場の場として提供してくださり、当時、田園調布教会の牧師であった藤井先生のご指導のもと、芝生のお庭を臨む明るい洋間で讃美歌をうたい、聖書の学びが続けられました。そこには田○さん、○内さん、○嘉さん、○木○子さん、○田○子さん・・・（脳裏に浮かぶ方々）がおいででした。「○貴子おばさん」の弾くオルガンで讃美歌を歌うのが、この私には特大の楽しみであり、喜びでした。

・そのオルガンは、奇しきご縁のもと、いま現在、私たち夫婦が日曜礼拝に出席している京都の「修学院教会」にて使われています。そのご縁もあって、私たち夫婦には、この「藤が丘ルーテル教会」と京都の「修学院ルーテル教会」とは「二つにして一つの教会」「アイデンティティー・チャーチ」なのです。まことに「有り難い」ことだと感謝しています。

・今なお収束することのないコロナ禍の最中ですから、教会に集われる皆様、どうぞ十二分にご自愛くださいますように・・・。
(○せひろ○○/慶應大学名誉教授)



●まさに「旅の始まり」を象徴する写真です。いよいよ教会建築が始まりました。更地となった現場で記念撮影。写真中央には江口再起牧師と田○子さん、写真左端は関○○弘さん。写真右端は本稿執筆者、写真提供者の○瀬啓○さんです。（佐藤）

難民の現状から ～私たちに求められる関わり方を考える～ ○木○子

今年6月9日に入管法（出入国管理及び難民認定法）がその公正さを疑問視される中、改正されました。

お恥ずかしくも難民問題については、ニュースやドキュメンタリーなどで断片的に知る程度でした。原島先生の講義の多面的なアプローチで全体図が少し掴めた気がしましたが、大きいテーマは私の手に余るので、「根源的な原因」と「関わり方」について感じた事を書かせていただきます。

講壇奉仕のテーマと向き合う一助になればと、気になる新聞記事を切り抜いていました。そこで知ったのは、日本の難民の受け入れ人数の圧倒的な低さ(カナダ 59.2%最大、日本 2.0%最低 /2022 *原島先生の資料)、不透明で不公正な認定基準、何より「疑わしきは申請者の利益に」との国際的な原則からかけ離れた日本の実態でした。

私が一番知りたいのは、なぜ日本人はここまで難民問題に頑なで冷酷とも言える姿勢を取り続けようとするのか、日本人（政治家？）の根底に強くある思想や原理とは何なのか、です。答えが出し難く、根深い問題なのでしょう、残念ながら講師の先生からは明確なお答えはいただけませんでした。

一つ言えることは、原島先生も仰っていたように、日本人は「多様性」を容易に受け入れる国民ではなさそうだと仰るそうです。

（因みに私自身は、難民問題も LGBTQ 同様



に、多様性という括りの中で私たちが向き合う課題であると考えます)

日本は、西欧諸国に比べて、鎖国の歴史や地政学な問題もあると思いますが、教育の過程で「多様性」はあまり尊重されていなかったと感じています。難民問題一つ取り上げても、実際に関わり引き受ける事は、キレイごとだけでは済まされない相当な覚悟が必要であると想像します。難民問題は頭で分かっているとしても現実問題として関わるのはムリ、とならないように、今さらですが、一体どのようにこの課題と関わったら良いのでしょうか。

私に考えられるのは、折に触れてたくさんの情報を取り、できる限り自身に引き寄せて考える、つまり一個人として自分を教育する



必要性です。(教育；その人を望ましい方向に変化させること *大辞林)。それは容易なことではなく、時間もかかるでしょう。しかし今回のテーマを通じて、小さくとも個人として出来る大きな事と信じて、これからの私の努力目標の一つにしたいと改めて考えました。勿論、神様の大きいなる力に頼みながら。

日本福音ルーテル藤が丘教会
宣教40年感謝礼拝
 いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。
 テサロニケの信徒への手紙 - 5章16-18節 a

●5月7日(日) 午前10時半
 小副川幸孝先生 (前藤が丘教会教師)

●9月3日(日) 午前10時半
 栗原茂先生 (元世田谷新町教会教師)

●12月3日(日) 午前10時半
 江口再起先生 (初代藤が丘教会教師)

日本福音ルーテル藤が丘教会
 〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21
 045-973-2729 mailto:fujigaoka@jelc.or.jp

教会の情報は
 こちらから！

宣教40年『感謝』礼拝に 集められましょう。

9月3日の礼拝は、栗原茂先生をお迎えしての、宣教40年感謝礼拝の2回目になります。栗原先生は、皆さんご存知のように、世田谷新町教会の牧師として働かれました。藤が丘教会のメンバーにも、「新町教会」出身の方々が数多くおられます。

上のチラシにも見ることができますが、教会の洗礼盤は「新町教会」から譲り受けたもので、40年の歴史を共に過ごしてまいりました。藤が丘教会が譲り受け、受洗者は101名を数えています。

第28回宣教フォーラムに参加して ○田○一郎

7月8日(土)に東京教会において開催された第28回東教区宣教フォーラムに参加しました。今年のテーマは「五感に響く豊かな礼拝」で、聴覚(音楽)の分野では加藤拓未先生が、視覚(能・楽劇等)の分野では上村敏文先生が講演をされ、その後で参加者がグループに分かれて討議をし、両先生への質問をまとめるという形でプログラムが進められました。加藤先生のバッハの「マタイ受難曲」の解説の中で合唱とコーラルの対話になっている箇所があるという説明は、大変興味深く拝聴しました。音楽にあまり馴染みのない私でもバッハの素晴らしさが少しは響いたかなと思いました。また上村先生の楽劇「ガラシャ」も機会があれば是非一度観たいなと思いました。久しぶりに他教会の方にもお目にかかり、コロナ禍のなかでも皆さん元気でやっておられるのを見て安心しました。準備をされた実行委員の皆様ご苦勞様でした。



●女性会だより

7月16日 15名出席
司会、お祈り ○山姉
讃美歌 318番

聖書の学び

ローマの信徒への手紙 3章 12～18節
「善を行う者はいない。ただの一人もない。」
「彼らは平和の道を知らない。彼らの目には神への畏れがない。」

正しくない自分に会って行く。自分は正しくはなれないが、いかに罪を抱えている自分に会って行くかが、大切であり、神の下で互いに許しあい、祈りあい、支えあっていくことが大切である。

2 女性会例会

①物品販売について

6月18日の礼拝終了後の物品販売では7万1250円の売上があった。今後、10万円のまとまった金額に達した時にウクライナ支援の連帯献金に捧げる。

②第5回春の会長会&女性の集いの報告

③連盟と東教区女性会についての説明

④藤が丘教会の今後のについて

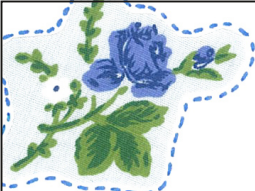
色々な意見があった。③の資料で石田姉が作成した資料と先日の会長会で配布された資料を今月の女性会でお配りしたので9月女性会例会ではそれらを参考にして、意見交換していく。

次回例会は9月17日 12時半から

●牧師室より




昨年4月より教会実習をされて来た、大○○子神学生の教会実習が今月で終了となり




今月、受洗記念日を
迎えた方

24日 ○田○郎兄

おめでとうございます。



「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」
テサロニケの信徒への手紙一5章16-18節a
●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから。



ました。それぞれの良き交わりに感謝します。8月から始まる、宣教研修の上に主の祝福がありますようお祈りいたします。

8月6日の信徒礼拝では、○谷○子さんが証しを担当されます。どうぞお祈りください。ぜひお出かけください。当日はYouTubeではなく、ZOOMを用い限定的な配信をいたします。8月の教会は、9日にお仕事会、14日に「虹のひろば」がそれぞれ予定されていますが、その他はお休みとなります。

9月3日（日）は、宣教40年感謝礼拝です。栗原茂先生をお迎えいたします。どうぞご予定ください。

暑い日が続いています。皆さんのご健康が守られますように。お祈りしています。

(佐藤)



👉スマートフォンで、こちらのQRコードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。